

方言

56期生

I テーマ設定の理由

この春、私は東京から大阪に越してきて自分の話す言葉と、大阪弁との違いに驚きました。そういえば、最近では、テレビでも方言が出てくることがありますし、旅行などで別の県へ行けば、各地方の方言を耳にもします。一体この日本列島で、どのような日本語が存在しているのだろう。この疑問をもとに出来るだけ色々な角度から方言について調べてみたいと思い、このテーマを選びました。

II 研究方法

1. 方言について書かれている書籍やインターネットを読み、調べる。
2. 共通語、方言で書かれている小説や漫画から分かることを探す。

III 研究内容

1. 方言とは何か?

(1) 地域方言

ある地域で話されている全ての言葉を地域方言という。この地域方言の中に各地域独特の言葉があり、この言葉を言語学上俚言という。私達が通常方言といっているのは、この俚言のことである。

表1 地域方言と社会方言

方 言	テレビ ラジオなど普通の言葉
	地域方言-地域全ての言葉 地域の特徴的な言葉 = 俚言
	社会方言-ある階層の人々が話す言葉

(2) 社会方言

ある階層の人々によって話される言葉を社会方言という。日本ではあまり盛んではないが、英語の世界では、社会的階層によって言葉が違う。あの有名なシャーロック・ホームズも見知らぬ人が話す英語を聞いて、その人の出身階層を見事にあてたとか…。

2. なぜ方言があるのか?

- (1) 都で生まれた言葉が地方へ伝わった後、都では廃れ、地方では残ったケース。
- (2) 各地域独自の気候、自然環境などから便利でおもしろい言葉が生まれた。
- (3) 各地域が「国」であった時代に、他国の人間や隠密（外部の人間）を発見しやすくする為、その国独自の難解な言葉を作った。

3. 方言区画

右表は、1935年、東条操氏によってまとめられた方言の区画案である。同じ地域でも人によって違いが生じる為、方言の境界線を引くことは難しい。けれども、単語、語尾、発音、アクセント、語彙体系の違いから日本全体の方言を大まかに分類することが出来る。これを方言区画という。

表2 東条操氏による区画案

方言	東部	北海道・東北 関東・東海東山 八丈島
	西部	北陸・近畿・中国 雲伯・四国
	九州	肥筑・豊日・薩摩
	琉球	奄美・沖縄・先島

4. 言語地図

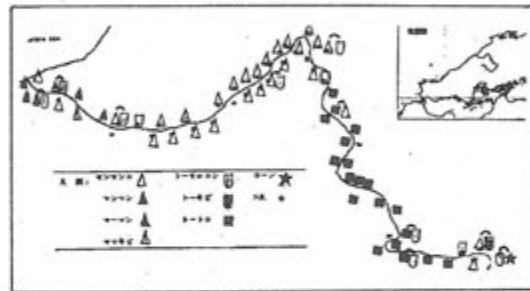


図1 江の川流域「どうもろこし」言語地図

方言事象に記号を当てて、それを日本地図の上書き込んでいったものを言語地図という。記号の形を見て同じ系列の語がどのように分布しているか傾向を見ることが出来る。

又、統語線を引くことで、方言区画を考えたり、語の侵入の道筋や時期を考えることが出来る。

5. 方言分布

方言の分布にはいくつかの特徴がある。分類すると(表3)のようになる。

表3 方言分布表

方言分布表	分布の種類	例
	東西対立	居る(イル、オル)
	周囲分布	蝸牛(カタツムリ デンデンムシ他) 古語 目覚める=驚く
	交互分布	美しくときれいに
	三辺境分布	つむじ風
	複雑分布	めだか、おてだま
	全国共通分布	雨

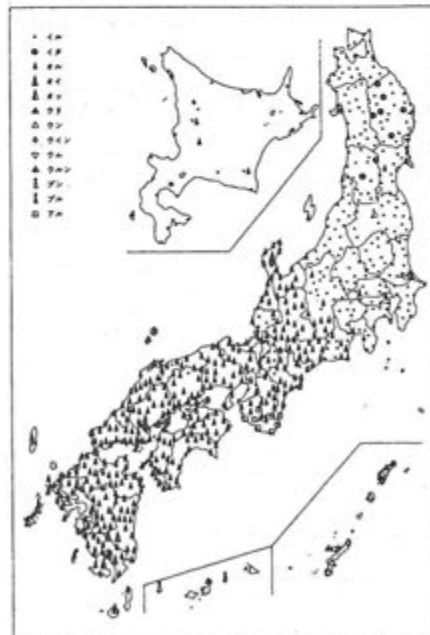


図2 「いる」

1) 東西対立-いる

「居る」の方言地図を見ると、東では「イル」西では「オル」が多く分布。このように東と西がくっきりと分かれるケースを東西対立という。多くの場合、境界線(糸魚川・浜名湖線と呼ぶ)が、だいたい中部地方あたりであることも特徴。

(2)-1 周囲分布-かたつむり

方言の全国分布地図を用いて言葉の伝播プロセスを言語地理学的に解明したのは、柳田国男の「蝸牛考」(1930年)が最初のものである。柳田国男は、全国の「かたつむり」の方言を通信調査によって収集し、ナメクジ系、ツブリ系、カタツムリ系、マイマイ系、デンデンムシ系に分類した。

その結果、京都を中心にして生まれた言葉が水の波紋のように全国に広がり、古い言葉ほど辺境の地に見られるという「周囲論」を唱えた。こうした分布を、周囲分布という。



図4 波紋図



図3 「かたつむり」



図5 驚く=目覚めるか

(2)-2 方言に残る古語

古典では「おどろく」が「目覚める」の意味で用いられる。この古典の用法が辺境の地で現在も方言として残っている(図5参照)。これもまた、典型的な方言周囲分布である。



図6 「きれいに」

(3) 交互分布-きれいに

「キレーニ」と「ウツクシク」が交互に分布されている。

(4) 三辺境分布-つむじ風

「マキカゼ・カゼマキ」という言葉が、東北、中部、南西諸島の三箇所の地域に分布している。これを三辺境分布という。



図7 「つむじかぜ」

(5) 複雑分布—おてだま

複雑で分布域が確定できない。このようなケースは、子供の遊びに関わる言葉に多い。小学校の通学範囲と一致したり、最近では、通っている塾ごとに遊びがあったり、より複雑になる傾向が強いようだ。

(6) 全国共通分布—あめ

「雨」は日本全国何処へ行っても同じ言葉である。これを全国共通分布という。

6. 言葉は伝わる

方言の多くは、陸上を伝わって広がるが、中には、川や橋、海を渡って広まった例もある。

(1) 橋を渡る言葉



図9 「めぼ」

言葉が橋を渡って伝わった例である。

広島県の尾道と愛媛県の今治は因島大橋でつながっている。橋の周辺地域では、「モノモライ」のことを「メボ・メイボ」などという。

(2) 山脈による伝播の阻害

図10は、山脈によって言葉の伝播が阻害されたと思われるケースである。

山脈の東と西では、くっきりと方言が異なる。

(3) 海上伝播

鹿児島県では、氷柱を「ビードロ」という。ビードロは、ポルトガル語でガラスという意味。氷柱が西洋から渡来したガラス細工を連想させたことからこの言葉が生まれたと考えられる。

このビードロの語が、鹿児島から茨木に至る海岸地帯に分布している。又、新潟県の佐渡島は、かつて能登と航路で結ばれていたため、新潟の方言（東部の方言）ではなく、「タルキ」という能登の方言（西部の方言）になっている。どちらも、言語の海上伝播を示唆する（図10参照）。



図8 「おてだま」

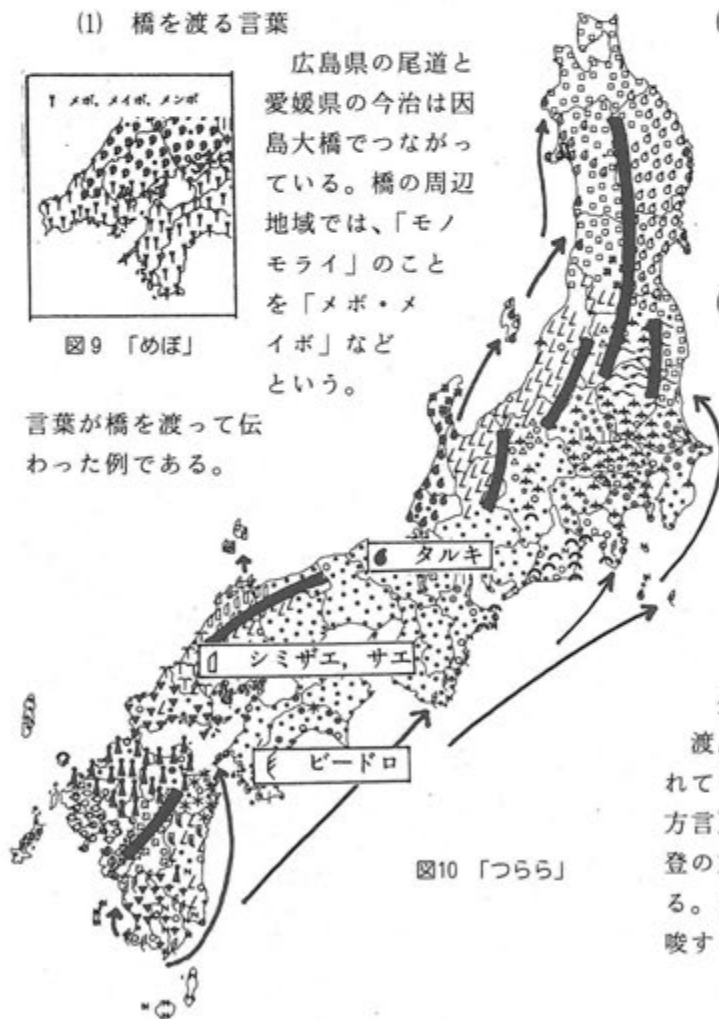


図10 「つらら」

7. 言葉の伝わる速度

現在、中国地方の方言として残っている「～なんだ」という言葉は、遡れば、1477年「史記抄」という書物にはじめて登場する。このことから、約550年で、330kmの距離を伝わった、と考えられる。 $330 \div 550 = 0.6$ なので、「～なんだ」は、1年に0.6kmの速さで伝わったことになる。このことから、徳川宗賢氏は27語の言葉を選び、平均を伝達速度とした。平均年速約1km。

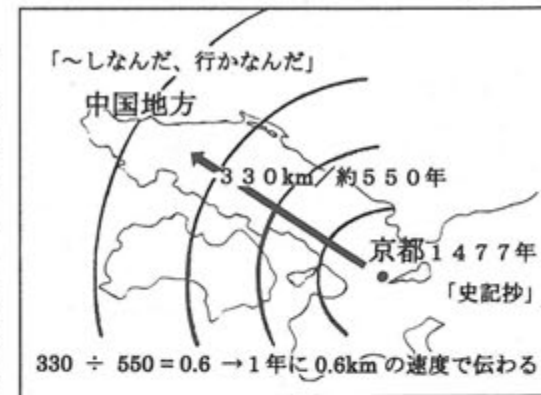


図11 言葉の伝達速度

8. 「我輩は猫である」を関西弁に訳してみる

我輩は猫であるちゅうわけや。名前はまだないちゅうわけや。

どこで生まれたのかとんと見当がつかへん。なんでも薄暗いじめじめしたトコでニャーニャーないとったことだけは記憶しとるちゅうわけや。我輩はここでこの世におぎゃあいうて生まれてはじめて人間ちゅうものを見たちゅうわけや。しかもあとで聞くとそれは書生ちゅう人間中で一番野蛮な種族やったそうや。この書生ちゅうのは時々ウチらを捕まえて煮て食うちゅう話であるちゅうわけや。

9. 標準語と共通語

社会通念上、標準語と共通語は、ほぼ同じものとして使われている。

しかし、学術的には、標準語はかなり硬いイメージで論文などに使われる言葉である。一方共通語は、柔らかいイメージで、全国何処でも通じる言葉とされる（表4参照）。

表4 標準語と共通語

社会通念	標準語=共通語=テレビ語=東京語
学術的考え	標準語=共通語を洗練し、最も規範的、理想的言語 共通語=全国で通じ合える言語

表5 日本人の意識

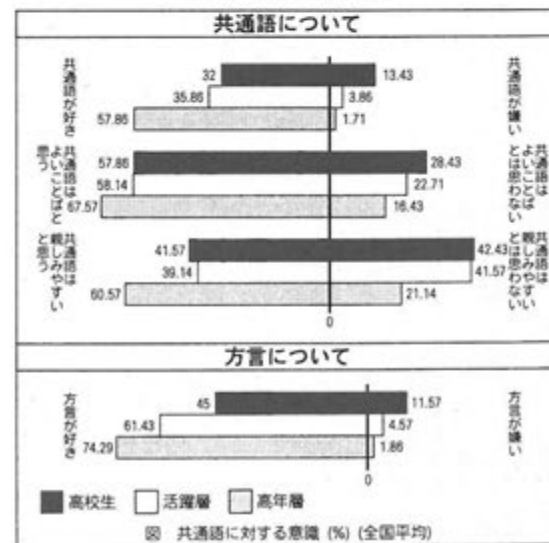


図 共通語に対する意識 (%) (全国平均)

10. 日本人の共通語と方言に対する意識

高年齢層は共通語にも方言にも好感を持っているが、高校生の好感度は方言、共通語共に低い。近年、日本の若い世代が使っている言葉を考えても、方言とも共通語とも言えない言葉が多く存在する。方言や共通語に興味を感じない若者たちが、自分たちの間で話しやすい言葉を模索し始めているのかもしれない。

11. 方言を残したい

自らのアイデンティティを方言に求め、自分たちの言葉を見直そうという働きが、近年注目されている。こうした傾向は、方言が主流の地域に強い(表6参照)。

全体の傾向として、西日本の地域は、方言主流社会であり、方言に対する評価も他の地域より高く、方言を後世に残したいと希望している(表6・7参照)。

表8 方言について

	高校生		高年層	
	味がある	素朴	味がある	素朴
札幌	32	16	14	14
弘前	68	28	46	36
仙台	34	14	44	46
千葉	20	30	30	30
東京	8	6	16	0
松本	32	24	14	12
大垣	22	18	14	20
金沢	34	18	40	34
京都	46	14	54	24
広島	46	14	20	24
高知	44	20	36	40
福岡	62	12	50	30
鹿児島	54	14	42	38
那覇	58	20	52	30

又、大変興味深いことに、全国的には、共通語、方言離れが危惧される高校生が、これらの地域では、高年層よりも方言に味があると評価している(表8参照)。

12. 方言の特徴

人々が各方言をどう感じているか(表9)。

又、実際に、各々の方言で、「桃太郎」を話してみながら特徴を実感してみよう。

表9 各方言ベスト3

	1位	2位	3位
早口な方言	弘前	鹿児島	高知
荒っぽい方言	高知	広島	福岡
丁寧な方言	京都	那覇	鹿児島
聞き取り難い	那覇	弘前	鹿児島
使いやすい	福岡	弘前	札幌

表6 方言に対する意識

方言に対する意識	県名
高い	方言主流 74% 方言を求むる地域 弘前、京都、高知、福岡、鹿児島、那覇
低い	共通語主流 74% 方言を求められない地域 東京、札幌
曖昧	はざまにおかれた方言 仙台、千葉、松本、大垣、金沢、広島

表7 方言を後世に残したいか

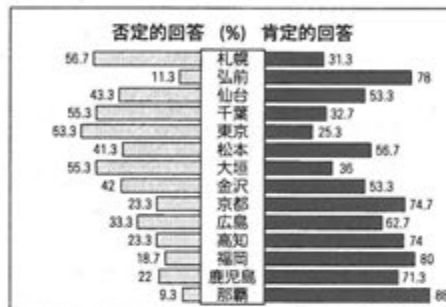


表10 各地方の桃太郎

お国言葉で聞く桃太郎 はじめの一節	
共通語	むかしむかし あるところにおじいさんと おばあさんがおりました。
青森県	むかしむかし あるところにじさまとばさまがあつていた。
山形県	むかしむかし あつとこさよーじさまとばさまがあつたけや。
宮城県	むかしむかし あるところにおじんちゃんとおばんちゃんがあつた。
富山県	むかしーどこやでな じーさまとばさまがいたとよ。
静岡県	ずーとみーあるところじーとばーん。
愛知県	むかしーむかしーあるところにおじーさんと おばーさんがござつて。
京都府	むかしむかし あるところにおじーさんと おばーさんがいらしたよ。
大阪府	むかしむかし あるところにおじーさんと おばーさんがあつてんと。
岡山県	むかしむかし あるところおじーさんと おばーさんがおりました。
島根県	とんとんむかしがあつたげな あーとこにおじと おばがあつたげな。
山口県	むかしむかし あるところじーちゃんとおばーちゃんがあつたのう。
鹿児島県	むかしむかじの こんじゃつた あるところおじーさんと おばーさんがおいやつたわい。
沖縄県	むかしむかし あるところんかい たんめいとんめーがめんしーびーたん。

IV 感想

方言が、自然や人々の生活の中から生まれ、広がり、ついには地域の人々の人格証明(アイデンティティ)にまでなってしまう事は、驚きでした。私達にとって、方言のみならず言葉がいかに大切な存在であるかを再確認させられました。又、今回使用した資料はどれも本当に気の遠くなりそうなデータをもとに膨大な時間をかけて調べ上げたものばかりでした。言語学の研究は、とても時間のかかる、忍耐力を必要とするものなのだ痛感させられました。

V 参考文献

- 。「どうなる日本の言葉」 佐藤和之・米田正人
- 。「方言の地図帳」 佐藤亮一
- 。ホームページ 方言楽の館
- 。ホームページ なんでもねん2